１１組　　道徳指導案

１　主題名　　本当の友達とは〔内容項目Ｂ－（８）：友情〕　（１時間完了）
〈資料名　「ともだちや」　出典：小学校３年どうとく（文溪堂）〉

２　ねらい

初めはお金をかせぐことを目的に動物と友達になってきたキツネが、オオカミと出会い、「それが本当の友達か」とどなられ、真の友情とは何かを考える。そのときのキツネの心情を考えることで、本当の友達とは利害関係ではなく、安心して何でも話したり遊んだりできる存在であることに気づき自分も友達と互いに理解しあい、信頼し合える関係を築こうとする道徳的実践意欲を高める。

３　ねらいとする道徳的価値

友達とは、安心して楽しく過ごせる関係のことである。嬉しいときは一緒に喜び、苦しいときは寄り添ってなぐさめたり、励まし高め合ったりする、なくてはならない存在である。友達は学校生活の中で重要な役割を果たしている。

本学級の生徒も、一人で遊ぶことよりも友達といっしょに遊ぶことを好む。しかし、自己中心的な言動や行動で友達を怒らせてしまったり、悲しませてしまったりすることがあり、真の友情をはぐくむところまで至らない。友達と深い信頼感をもち、互いに理解し合うことはだれもが目指すところである。そこには利害関係ではなく信頼関係がなければならない。目先の損得や、その場の楽しさばかりを求めていたのでは、友情は成り立たない。

本時を通して、相手を思いやったり自分の思いを伝えたりしながら、さらに友情を深めていこうとする気持ちを育てたい。

４　ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

（１）学級について

本学級は男子６名（１年１名、２年３名、３年２名）、女子１名（２年）、計７名の情緒障害・自閉症学級である。友達とのかかわり合いでは会話が成立する生徒が多いが、精神年齢はかなり低く、明るく正直に自分の気持ちを表現したり、人の話を聴いたりできる反面、自分勝手な言動も多く見られる。特に、相手の気持ちを考えずに言葉を発したり、強引な態度でみんなに迷惑をかけてしまったりすることがある。そのため、思いやりの気持ちや、社会生活を送る上でのマナー、気配りなどの大切さに気づき、友情を大切にしようとする気持ちを高めていきたいと考えた。

本時の道徳では、「本当の友達とは？」というテーマでキツネの気持ちを想像しながら、友達とは目先の損得や自分のしたいことを相手に押しつけて遊ぶ関係ではない。お互いが楽しく、信頼し合えるように歩み寄ったり、思いを伝え合ったりしながらかかわっていく中で友情がはぐくまれてくるものであることに気づかせたい。

（２）生徒の実態と個人目標（次々ページ参照）

５　資料について

（１）資料の概要

「ともだちや」を始めたキツネは、寂しい人の友達になってお金をもらおうと考える。クマに呼ばれて嫌いなイチゴを食べさせられ、痛むおなかを押さえながらお金をもらう。今度はオオカミに呼ばれトランプの相手をする。代金を請求したキツネに、オオカミは「それが本当の友達か。」と、怒る。オオカミはキツネを友達として呼んだのであり、「ともだちや」として呼んだのではなかった。そのことからキツネは本当の友達とは何かを知る。

（２）「耳をすまして学びを拓く」ための資料の生かし方

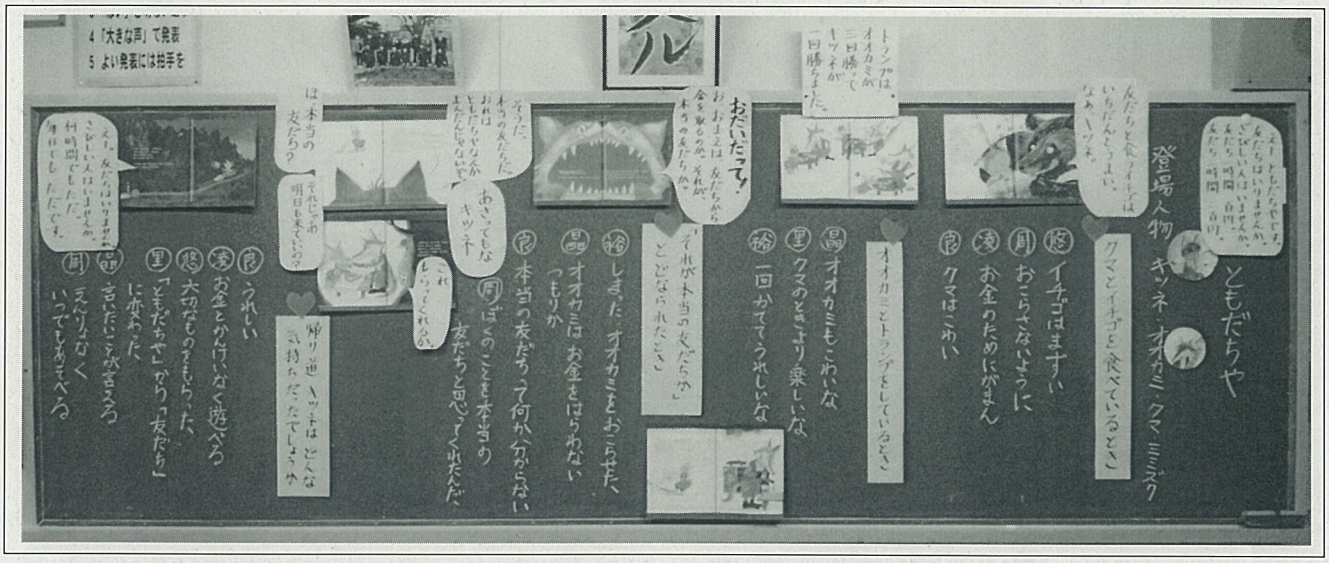
①資料との対話をさせるための手だて

話の流れをつかみやすくするために、紙芝居を提示し視覚的に物語をとらえられるようにする。発問に合わせて手がかりとなる場面の紙芝居を黒板に貼ることで、登場人物の気持ちを考えられるようにする。オオカミが「本当のともだちか」という場面では、役を決めて動作化させることで、登場人物になりきって気持ちを考えられるようにする。クマや、オオカミと過ごしていたときは「ともだちや」として接していたことを板書にまとめておくことで、中心発問でキツネの気持ちの変化に気づけない生徒が振り返りにおいてそれに気づき、自分の考えをもてるようにする。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

中心発問について、「変わった」など短い言葉でなら自分の考えを述べることができる生徒をまず指名し、「何が変わったのか」と切り返し理由を聞く。理由が言えない場合は他の生徒の意見を聞き、近い意見はないかと問うことでキツネの気持ちに気づくことができるようにする。「ともだちや」から「ともだち」に変わったという生徒がいたら、具体的にどの場面で変わったのか意見を言い合うことで本当の友達の意味を考えられるようにする。授業の終末でワークシートに振り返りを書かせる。机間指導をして、なかなか書けない生徒には「黒板を見て、いいなと思った言葉を書いてみよう」と声をかける。また、自分の考えを整理できない生徒には「本当の友達について自分なりの考えを書いてごらん」声をかけることで自己内対話を深められるようにする。

６　板書計画



生徒の実態と個人目標

	生徒の実態	本時の目標	手だて	評　価
生徒A	・人なつっこい面があるが、知らない人が声をかけると反応を示さないこともある。 ・友達にかかわりたいときや、嫌な気持ちを解消しようとするときに、友達の嫌がることをしてしまうことがある。	・キツネの気持ちを考えることで、友達と仲良くすることが大切だと気づくことができる。	・中心発問では「変わった」など短い言葉で自分の考えを表現すると予想されるので、最初に指名し、「何が変わったのか」と切り返し理由を聞く。理由が言えない場合は、他の級友の意見を聞いた上で自分と同じものはあるかと問い、考えを深める。	・キツネの気持ちを考えることを通して、友達と仲良くすることが大切だと気づくことができたかどうか、発言の様子や友達のどの意見に共感していたかで判断する。
生徒B	・普段から、友達と仲良く会話をすることができる。 ・自分が正しいと思うと、どんなことでも相手の気持ちを考えずに言ってしまう。	・場面ごとのキツネの気持ちを考えながら、本当の友達について、自分の考えをもつことができる。	・キツネの気持ちを考える場面にハートマークを提示して考えやすくし、キツネの考えの変容に気づくようにする。友達の意見を板書で整理することで、自分の考えを深める。	・場面ごとのキツネの気持ちを考えながら、本当の友達について自分の考えをもつことができたか、発言の様子や感想から判断する。
生徒C	・穏やかに友達と接し、みんなから好感をもたれている。 ・嫌なことを言われたりされたりしても、その場で反論したり断ったりすることができない。自分が嫌だと思ったときには教師のそばに来て、友達と距離をおくようにしている。	・本当の友達とは何か、他の友達の意見を聞きながら、自分の考えを言ったり、感想を書いたりすることができる。	・中心発問に対する級友の意見の中で「ともだちやからともだちに変わった」という発言が出たら、それらの意見についてどう思うか、また、具体的にどの場面で変わったかを問うことで、本当の友達のついて考えを深めるようにする。	・本当の友達とは何か、他の友達の意見を聞きながら自分の考えを言ったり、感想を書いたりすることができたか、発言の様子やワークシートから判断する。
生徒D	・自分が正しいと思うことを、先輩に対しても強い口調で言うことがある。 ・自分もできていないのに、友達にあるべき姿を強く求めることがある。 ・学級のための手伝いを率先して行うことができる。	・友達の意見に共感したり、補足したりしながら、自分の考えを深めることができる。	・キツネの気持ちを考える場面にハートマークを提示して考えやすくし、キツネの考えの変容に気づくようにする。 ・中心発問で、自分と違った見方をしている級友の意見をどう思うか問い返すことで、本当の友達についての考えを深められるようにする。	・友達の意見に共感したり、つけたしたりしながら、自分の考えを深めることができたか、発言の様子やワークシートから判断する。

	生徒の実態	本時の目標	手だて	評　価
生徒E	・おとなしいが、友達の様子をよく見ていて、深い発言ができ、級友から一目置かれている。 ・１０組の女子や生徒Ｃなど、趣味の合う友達と楽しく会話をすることができる。 ・自分勝手な行動をする友達に対してぶつぶつと独り言を言いながら怒っていることがある。	・本当の友達とは何か、他の友達の意見を聞きながら、自分の考えを言うことができる。 ・授業を通して自分の生活を振り返り、感想を書くことができる。	・中心発問に対する級友の意見の中で「ともだちやからともだちに変わった」という発言が出たら、それらの意見についてどう思うか、また、具体的にどの場面で変わったかを問うことで、本当の友達のついて考えを深めるようにする。 ・環境の変化により意見が言えない場合は、振り返りで書いたことを取り上げ、全体に広げることで他の友達が共感できる機会をつくるようにする。	・本当の友達とは何か、他の友達の意見を聞きながら自分の考えを言ったり、感想を書いたりすることができたか、発言の様子やワークシートから判断する。
生徒F	・トランプや鬼ごっこなど、友達と一緒に遊ぶのが好きで、休み時間に率先して誘っている。 ・自分が思った通りに事を進めたい思いがあり、それがもとで怒ってしまったり、友達に強制してしまったりすることがある。	・オオカミの言葉を通してキツネの気持ちを考え、本当の友達について自分の考えを発表することができる。 ・授業を通して自分の生活を振り返り、感想を書くことができる。	・２匹のせりふの板書や動作化を通して、キツネとオオカミの気持ちを想像し、考えを深められるようにする。 ・中心発問で、キツネの気持ちの変化にすぐに気づくと予想される。どの場面でどのように変わったかを問うことで、他の生徒の考えを深め、共感してもらうことで自信をもって発言できるようにする。	・オオカミの言葉を通してキツネの気持ちを考え、本当の友達について自分の考えを発表することができたか、発言の様子やワークシートから判断する。 ・自分の生活を振り返り、感想を書くことができたか、ワークシートから判断する。
生徒G	・人なつっこく、誰にでも話しかけることができる。 ・相手の気持ちや、場の雰囲気を考えて話をすることが苦手で、友達を怒らせてしまうことがある。 ・本の読み聞かせでは、ストーリーや主人公の気持ちを理解するのが難しい。	・オオカミがキツネを本当の友達だと思って接していることに気づくことができる。 ・キツネの友達についての考えの変化に気づき、自分の考えを発表することができる。	・中心発問について、「わからない」という発言が出た場合、キツネがともだちやを始めたころと、オオカミに「本当の友達か」と言われた後では、友達についての考えは同じかどうか問い、キツネの気持ちの変化に気づくようにする。 ・劇化を通して、キツネとオオカミの気持ちを想像し、考えを深められるようにする。	・２匹のせりふや劇化を見て、オオカミがキツネを本当の友達だと思って接していることに気づくことができたか、その後の発言で判断する。 ・キツネの友達についての考えの変化に気づき、自分の考えを発表することができたか、発言の様子やワークシートから判断する。

7　本時の展開

時間	学　習　活　動	※教師支援　☆評価
	友達がいてよかったことは何か。 何でも話せる。相談できる。 一緒に遊んだ。勉強を教えてくれた。 苦しい時も乗り越えられる。 一緒にいて楽しい。（①）	※具体的な場面を想起させ、それぞれの思いを述べさせることで級友の考えに気づけるようにし、道徳的価値への方向付けをする。（**①C：気づかせる**）
5	○読み聞かせを聞く。	
10	クマとイチゴを食べているときのキツネの気持ちを考えよう。 イチゴはまずい。 怒らせないように。 お金のためにがまん。 クマはこわいな。	※本時はキツネの気持ちを中心に考えていくことを伝え、方向づけを図る。 ※挿絵やせりふから、クマやオオカミといるときの気持ちを、生徒A、B、E，Fに聞く。
15	オオカミとトランプをしているキツネの気持ちを考えよう。 オオカミもこわいな。 クマの時より楽しいな。 一回勝ててうれしいな。	※オオカミといるときも、キツネは「ともだちや」として接していることを、生徒C、E、Gに聞くことで、確認する。
20	オオカミに「それが、本当の友達か」とどなられ、キツネはどんなことを思ったか。 ○オオカミとキツネのやりとりを劇化する。 本当の友達って何か分からない。 しまった。オオカミを怒らせてしまった。 だって「ともだちや」だからお金をもらわないと。 オオカミはお代を払わないつもりなのかな。（②） たしかに、オオカミとトランプをしているときは楽しかったな。 ぼくを本当の友達と思ってくれていたんだ。	※２匹のせりふを板書することで、この言葉に込められた気持ちを視覚的に考えられるようにする。 **※オオカミがお代を踏み倒そうとしているようにもとれるので、オオカミとキツネの会話を動作化することで、キツネを本当の友達だと思って接していることに気づけるようにする。（②D：軌道修正する）** ※生徒C、E、Gには、オオカミの「本当の友達」の意味を考えさせてから、指名する。

３０	帰り道、「えー、ともだちはいりませんか・・・。」と言ったときのキツネの気持ちを考えよう。 ○意見を交流する。 「本当の友達」に変わった。（③） お金と関係なく遊ぶことができる友達ができた。 オオカミから、一番大切な物をもらってうれしい。 オオカミと言いたいことが言い合える関係になった。 遠慮なく明日も明後日も遊べる友達ができた。 「ともだちや」から「ともだち」に変わった。（④）	※「本当の友達」という言葉が出たら、どんな友達か、切り返すことで、本当の友情について深く考えられるようにする。（**③E：切り返す**） ※「ともだちや」から「ともだち」に変わるということは、具体的にどのように変化したということか問い返す。他の生徒にも考えを聞き、本当の友情に気づいたキツネの喜びに気づくことができるようにする。（**④E：切り返す**） ☆キツネの考えの変化について、自分の思いを伝えることができたか。 （発言の様子、うなずき）
４０	○教師の説話を聞く。 自然教室で４泊５日ともに過ごした１年生のＡとＨ。普段はそれほどかかわることのなかった二人だが、自然教室を通して、Ｈはいつも Ａを気にかけ、声をかけていた。Ａは自然教室をふり返ると必ず最初にＨのことを絵に描いた。二人の間に生まれた友情は、他の生徒にも通じることであり、これから友達との友情をはぐくもうとする気持ちがもてるようにする。	※Ｔ２が自然教室で感じた１年生の友情の話をし、生徒に身近な出来事として感じられるようにする。
４５	○ふり返りをする。 キツネの気持ちを考えることを通して、本当の友達についての考えを伝え合い、今までの行動をふり返りながら、自分も友達と共に理解し合い、信頼し合える関係を築こうとする意識を高める姿。	☆本当の友だちとは何かを考え、自分も本当の友だちをつくるにはどうしたらよいかを考えるようになったか。 （発言・ワークシート）

授業の視点

① Ｔ１とＴ２が発問や板書など役割を分担し、補足し合いながら授業を行ったことは、生徒が進んで意見を発表し、話し合いを深めるうえで有効であったか。

② 中心発問に対するコーディネート支援（③④E：切り返す）は、キツネが本当の友達とは何かを考えるうえで有効であったか。